

仙台市青葉区 40代 男性 会社役員



災害対策ゼロの自分に気づかされる

事務所でデスクワーク中、「地震だな」と軽かった次の瞬間にはこれまで体感したことのない信じられない揺れに…。

ビルが古いこともあり、本棚を始め、ありとあらゆるものが倒れるなか、必死で目の前の倒れそうなものを手で押えてました。とっさの出来事に机の下に身を隠すなど冷静な判断もできませんでした。

独り身で、両親は県外なので、まず心配したのは自宅マンションに居る愛犬のこと。マンションまでは徒歩圏なので、急いでマンションに戻り、啞然…。

8階の部屋は玄関にひび割れ、部屋の中は食器棚からテレビ、本棚まで、事務所同様にメチャメチャな状態。幸いにも愛犬は無事で、部屋のものには一切触れず、愛犬を連れてすぐに事務所に戻りました。

その後は事務所で3日間過ごすことに…。

もし一日前に戻れたなら…。

間違いなく、家電、家具などの壁止め、ストッパーなどの転倒落下防止対策を施し、そして、保存食の在庫状況をチェックしていたでしょう。

災害時用ではなく、たまたま直前に買い込んでいたからこそ保存食に余裕があり、それが結果的に功を奏しただけ…。

災害時を想定し、備えるということは何もしていなかったことに初めて気付かされた今回の震災でした。



東京都豊島区 40代 男性 自営業



商店街のメンバーで帰宅困難者に炊き出し

心も温まったフカヒレスープ

震災の次の日は土曜日で、商店街ではイベントを予定していました。フカヒレスープを販売するというものです。でも、夜7時前には、この状態でイベントをやっている場合じゃないと判断して、炊き出しとして帰宅困難者の方々に提供しようということになりました。

ところが、メンバーを集めようにも携帯電話がつかない。近所の家に行ってチャイムを鳴らして回って集まった10人ぐらいで炊き出しの準備を始めました。いつもなら、イベントではガスコンロを持って行って現場で作るのですが、それでは時間がかかりすぎる。そこで、和菓子屋さんの厨房を借りて、寸胴鍋2杯分のフカヒレスープを作ったのです。

販売するときには井で出す予定でしたが、より多くの人に飲んでもらいたいので、紙コップで提供することにしました。商店街の入り口にある広場で、夜の9時から配り始めて11時まで、用意した400杯は2時間でなくなっていました。あの日は寒かったから、皆さんとても喜んでいました。

たまたま次の日がイベントだったおかげで、食材があってよかったです。遠くまで歩いて帰る人たちの助けに、少しでもなれてよかったと思います。



横浜市 40代 男性 会社員



液状化現象を津波と勘違い

震災の日、私は浦安のホテルで、宴会場の音響・照明をコーディネートする仕事をしていました。

地震の瞬間は、まさにパーティーの真っ最中。急いで会場に駆けつけると、再び余震が。「近くのテーブルの下に隠れてください」と大声を張り上げ、機材を押さえました。

「お客さんをどうするか、早くジャッジをして」とホテルにお願いしましたが、なかなかアナウンスがありません。結局「いったん外に出てください」と指示があり、お客さん共々外に避難しました。すでにワンセグで東北の津波の事を知り、「外は危険なのでは？」と詰め寄りましたが、判断が覆ることはありません。

あたりを見渡すと、街灯が4～5本倒れ、バス停も倒れています。また駐車場からは、噴水のように水が噴き出しているところがあり、それもどンドン水の量が増えている感じでした。後で液状化が原因とわかりましたが、この時は「これも津波の影響か」と思い、再びホテルへ逃げ込んでしまいました。



高原町 60代 男性 消防団団長



近所の人の声かけが一番！

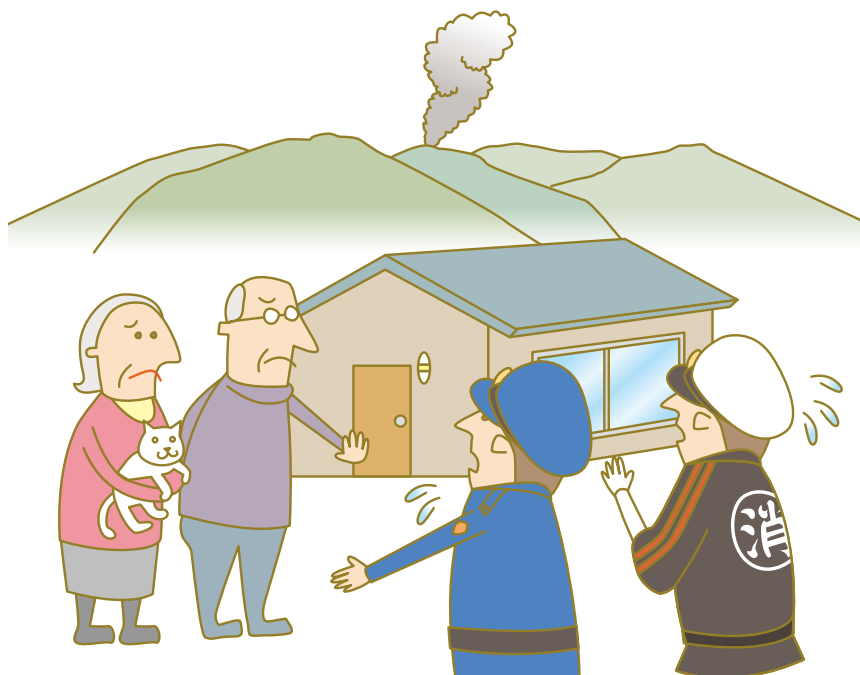
消防団員は避難の呼びかけと地域の見回りで大忙し

新燃岳が噴火するのを見たのは昭和34年と今回ので二度目なんですけど、あの時は水蒸気爆発だったので噴煙ちゅうのはあがらなかったとです。なので、今回の噴火で火柱ちゅうのを見た時は、ガタガタと足が震えましたよ。

消防団の団長をしとるもんですから、噴火から1ヵ月間は家に帰る間もなく慌しく動いておりました。

避難区域の住民に避難を呼びかけるんですが、中には応じてくれない人も何人かいてね。避難勧告でなく、拘束力のある避難指示だったらすんなり動いてくれたんでしょうけれども。高齢化の進んでおる地域ですから、行政が言っても聞かん人も多いんですわ。近所の人の「危ねえから、逃ぐっど」が一番効果的でした。

その他に、警察と一緒に避難区域の見回りなどをしましたよ。悲しいかな、避難中に空き巣などを企てる不届き者が現れるのも災害時の特徴ですからね。



高原町 50代 男性 公園管理者



真っ白になった勤務先

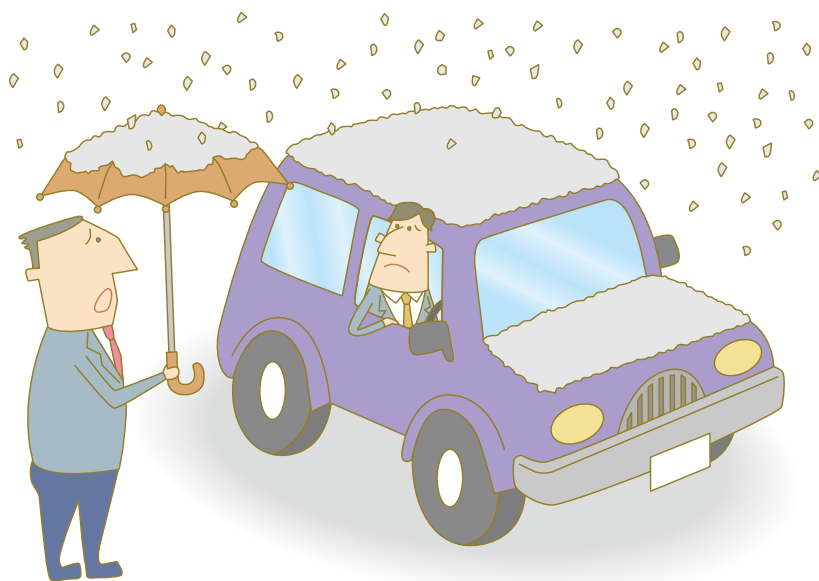
8人で50日頑張った灰集めはトラック30台以上

噴火からしばらくしてから灰が降り出しました。この公園は避難区域に入っているもんですから、その期間は営業が出来んわけですよ。ちよくちよくは様子を見に来てましたけど、だんだんと灰で真っ白になっていく公園を見た時は辛かったですよ。

公園までの道には灰が埃のように舞ってましてね、それで道路が見えんです。昼間なのにライトを点けて車を運転しました。歩道を歩いてる人の姿などは見えんですから、危なかったですよ。

避難が解除されてから職員8人で灰集めの作業を始めたんですが、これが50日かかりました。運んだ灰の数は、トラックで30台以上になりました。

お祭りのある4月までにはなんとか終わらせようと、朝から晩まで一生懸命に作業をしました。営業が再開出来た時は嬉しかったですね。



一日前プロジェクト みんなでやってみよう！

ー簡単な手順を紹介しますー

まず、過去の自然災害（地震、水害等）の中から対象を選ぶ



その災害の被災経験者や災害対応経験者に声をかける



みんなが集う場所と時間を設定する ※所用時間は約2時間



なごやかな雰囲気の中で、当時を思い出しながら、
体験したり感じたことを話し合ってもらおう ※話し手は、2人～4人が適当



「教訓」や「知恵」につながる部分を拾い出し、タイトルをつける



テープ起しなどを基に、拾い出した部分を「物語」にする

※物語は、300字～500字程度で、できるだけ語り口を残して編集

※物語の情景を表すイラストや写真等を添えると効果的



作成した「物語」を地域や職場のみんなに読んでもらう

